



真に尊敬すべき
本当に凄い奴の見極め方

例えばですね、めちゃめちゃ良い事言ってる人っているじゃないですか。頭の良さそうな賢い事言ってる人っているじゃないですか。

で、そういう人の言動を受けて、

「ああ、この人は凄いなあ」

「この人は成功するんだろうなあ」

「成功者だなあ」

「俺なんかとても敵わないなあ」

なんて思う人も少なくないと思います。

一流大学を出ているとか、大企業の社員だとか、経営者だとか、政治家だとか、凄そうな肩書があったりなんかすると余計にそう思う気持ちに拍車がかかってしまうと思います。劣等感を覚える人も多いと思います。

でもね、それだけでそいつが“本当に凄い奴”かどうかなんてわからないわけですよ。もしかすると、ただ文章が上手なだけかもしれない。喋りが得意なだけかもしれない。心理学を勉強していて、人を引（惹）きつける知識があるだけかもしれない。自己啓発や成功哲学を勉強していて、知識だけは豊富なかもしれない。

得意分野があったり、何かを凄く勉強していたりするの素晴らしい事だと思います。でもそれだけで、「凄い奴」ってことにはならないでしょう。それだけで、尊敬したり、憧れたりできんでしょう。それだけで、何か大切なものを託すことはできんでしょう。

そういう表面的なところで自分と比べて、ネガティブになってほしくないんですね。僕もたまに、文章がめちゃめちゃ上手な人と遭遇したり、喋りがめちゃめちゃ上手な人と遭遇したり、僕が持っていない知識をめちゃめちゃ持ってる人と遭遇したりすることがあります。でも、別にそれで劣等感

を覚えることはありません。

自分が持っていないものを持って、という意味での尊敬の念は沸いてきますが、

自分と比べてネガティブになったりは絶対にしない

ということです。

なぜなら、“ソコ”じゃないと思ってるからです。そいつが本当に尊敬すべき凄い奴かどうかを見極めるポイントは、ソコじゃあない。

あなたが真に尊敬すべき本当に凄い奴は誰だ？

という話です。

安全・安心の環境で、リラックスした快適な環境で、知識（+幾ばくかの経験）さえあれば、誰だって良い事言えるし、頭良くて賢そうな事言えるし、堂々としていて偉そうに見えるんですよ。達観してそうに見えてしまうんですね。そういうものなんですね。

多くの人は、

人を見る目

というものが未熟だから、仕方ありません。

「人を見る目」は学校では教えてくれないし、親や教師すらも未熟なんです。自分で育むしかないスキルです。

安全で、リラックスした所から情報発言している人がほとんど

だと思った方がいい。

また、今は特にネットが普及しているので、色んな情報が飛び込んでくるし、その発信源となる人物と遭遇することも多いと思います。そんなところを見て劣等感を覚えていても仕方がないですよ。

【目次】

1. 本当に凄い奴とは？
2. 最も試される場所

1. 本当に凄い奴とは？

ということで本題に入っていくのですが、「この人は凄い人だ」と尊敬したり憧れたりするのは、

“ここぞ” という場面で、どんな風に振る舞えることができるか

というポイントを見るべきです。

いわば

その人の“人間力”

です。

どんな発言をするのか、どんなふうに見えるか、どんな行動を取ることができるか・・・で判断するべきだと思います。

賢そうなこととか、偉そうなこととか、達観的なこととかってのは別に、素直じゃなくても、謙虚じゃなくても、誠実じゃなくても、精神年齢が低くても言えちゃうもんなんです。

“人間力”とはあまり関係のないスキルなんです。

“ここぞ”という場面というのは、人それぞれ違うと思います。その人の状況や立っているステージによって違うでしょう。

例えば、アーティストの“ここぞ”は、作品作りだと思うし、アスリートなら、本番でのパフォーマンスだと思います。僕であれば、コンテンツ制作がそれに当たります。

クオリティの高い曲作りをするためには、日々の感性を研ぎ澄ませていなければならないだろうし、本番で高いパフォーマンスを発揮するためには、日々のトレーニングを欠かせないだろうし、価値の高いコンテンツを生み出すには、日々の小さな出来事や経験を如何にして価値に変換させるか、ということを考えていなければならない。

営業マンなら、今まさに営業トーク中や、営業ツールを作っている時がそれに当たるかもしれません。主婦の方であれば、子育てやしつけ、家事などもそれに当たるかもしれません。

“ここぞ”とは、最も多くの人が見てくれている場面、期待してくれている場面

です。

自分にとってのそれは何なのか？・・・これを先ず考えてみてください。

ただ、偉そうなことを言っておきながら、正直な話、今の僕がそれを出来ているかどうかはわかりません。かなり微妙だと思っています。コンテンツ制作自体、手を抜いた記憶はありませんが、仕事が遅かったり忘れっぽかったりなどという性格的なところから、期限を守れないことや、誤字脱字や、返事の遅さや、返事のし忘れや、システム設定上の凡ミス・・・などは少なくありません。

「コンテンツ作りを“ここぞ”と言うのなら、それらのパフォーマンスも含まれるだろう」

という意見もあると思います。その通りだと思います。こういうお叱りを受けることも当然だと思います。期限を守れないことで、誰かを不安にさせたり不快にさせたりすることがあるかもしれない。けれど、「出すものはちゃんと納得のいくものにしたい」という気持ちは本物です。

“ここぞ”中の“ここぞ”にレーザーフォーカスしてしまうが故に、ないがしろにしてしまうものが出てくるのは、正直、僕の未熟さだと思います。要するに“ここぞ”の射程がまだまだ狭いのだと思います。

だけど、これを読んでいる人にわかってほしいのは、

最初は狭くてもいいから、「今の」自分にとっての“ここぞ” で手を抜かない

ということが、重要だと思うんです。

これは、自分自身への言い訳では決してなく、今から何かを始めよう、何かを成そう、と思っている人は、あえて“ここぞ”を狭めて、そこだけは手を抜かない・・・というモノを見極めるのも大事かもしれません。

これは、

長期的に成功し続けるための秘訣

と言ってもいいものだと思います。

最初からすべてをうまくやろうとするが故に、力が分散し、結局トータルパフォーマンスを下げている人は少なくないです。今自分が、一番力を入れなければいけないものは何か、という視点を持つことで起こせるブレイクスルーがあると思います。

“ここぞ”とは、最も多くの人が見てくれている場面、期待してくれている場面だと言いましたが、僕の場合それが、コンテンツの質そのものなんですね。

“ここぞ”中の“ここぞ”だけは、決して手を抜かない、ということ覚えていてください。そして、

自分にとっての“ここぞ”をどれだけ拡大・拡張していくことができるか

ということも、僕を含めて、一つの大きな課題・目標として据えてみるのがいいと思います。

2. 最も試される場所

もう一つの“ここぞ”の場所があります。「この場所でどう振る舞えるか」こそがその人の人間力が発揮されると言ってもいいと思うし、最も見るべきポイントと言ってもいいかもしれません。

それは

追い込まれた時、窮地に立たされた時

です。

例えば、言い訳が出来ない人とした約束をちゃんと果たせるかどうか、はととても大事だし、長期的に考えて自分の真価が「試される」ような場面で、冷静に、堂々と振る舞えるかどうか、が重要です。そして、自分が間違っていた時、堂々と「ごめんなさい」と言えるかどうか、です。ここで言う「堂々」とは、ふてくされたようなある種の「開き直り」とは違います。

「自分は正直間違っていたと思う。でも、方向性や目指しているものは揺るぎない。道は軌道修正する。だから許してほしい。これからは期待してほしい」ということを堂々と、つまり、ちゃんと襟を正して、相手の眼を見て言えるかどうか、ということです。

そこを見るようにして欲しいんです。

人間だから間違いはあります。僕のように、“ここぞ”に一点集中するあまり、決して軽くはない事をないがしろにしてしまうような人もいます。でも、相手の弱さの揚げ足を取るような見方をするのではなくて、

誠実かどうか

を見るようにしてほしいんです。

もちろん、

人を見るだけじゃなくて、「自分ならどうか?」「いざという
とき、自分は人間力を発揮できるだろうか?」ということも
常に考える

ことは同じくらい重要です。

他人のそういう場面に遭遇することは難しいかもしれませんが。普通に見ていても見える部分ではないかもしれませんが。だけど、その人の普段からの振る舞いを見ていればなんとなくわかることです。

思考と発言と行動が一致していない、いわば不誠実な人は、
往々にして偽物である可能性が高い

です。

「WIN-WIN」を無視した嘘を付く様な人は偽物の可能性が高いです。不信感だけが残る約束破棄をするような人も偽物の可能性が高いです。偽物は言い過ぎかもしれないけど、二面性がある人って多いですからね。

世の中未熟な人だらけです。世の中には、安全な場所では頭が良くて堂々と振る舞えて、でもいざというときは短期的思考パターンに切り替わってしまいアタフタしてしまう、オドオドしてしまうような人が本当に多い。

一方で、安全なときも、窮地に立たされたときも、変わらず冷静で、長期的な思考パターン・行動パターンで振る舞える人もいます。

僕にとってのメンターがまさにこれでした。

追い込まれた時、窮地に立たされたような場面というのはそんなに多くはないかもしれませんが、でも、安全な場所でものを言っている時ほど、

「これがもし“いざ”という場面だったら、同じように思えるか、同じように振る舞えるか」

ということを自分に問いかけることが大事だと思うし、僕も出来る限りそれを考えられるように意識しているところです。

大丈夫です。あなたが思っているほど、みんな偉くないですから。僕だってそうなんです。これを読んでいる人の中には、僕の事を成熟した凄い奴だと思っている人もいるかもしれませんが、そんなことはありません。まだまだ未熟だし、道半ばだということです。

表面的なスキルだけで判断してはいけない

ということです。

もしかするとあなたが追いかけてたい人は、口下手かもしれないし、文章下手かもしれないし、経済や政治や歴史の知識はないかもしれない。でも、“いざ”というときにカッコいい決断が出来る人間・・・なのかもしれないのだから。

ちなみに、自分が追い込まれて何かの決断を迫られた時は、こう考えるようにしてみてください。

「これがもし、無二の親友からの相談だったとしたら、自分は何て答えてあげるだろうか？」

こう考えたときに出てくる答えは、今自分に出来る現状ベストの決断です。

本当に大切な親友や家族が窮地に立たされた時というのは、皆こういう長期的な視点でアドバイスをしてあげていると思います。しかし、いざ自分が同じような場所に立たされると、途端に短期的な思考パターンに陥ってしまい、何をすべきか、どう振る舞うべきか、ということがわからなくなってしまうもの。自分の中から外を見ている良い決断はできないですね。

これは一種の感情コントロールの話なのですが、参考までにこういう話もおきます。

日常生活で赤の他人に対してムカつくような場面があると思います。例えば、60キロ制限の道路を40キロで走行していて渋滞を巻き起こしているとか、煙草を平気でポイ捨てしているとか、カフェで周り関係なくワーワーうるさくしているとか。

色んな場面があると思うのですが、そういうときは

「これがもし、自分の母ちゃんだったら……」

と考えてみてください。

別に、親父だったら……でもいいし、兄弟だったら……でもいいし、親友だったら……でもいいです。

かなり冷静になれますよ。ムカつきが「心配」に変わります。場合によっては、その人を応援してしまうかもしれません。

想像してみてください。60キロ制限の道路を40キロで走行していて渋滞を巻き起こしている車を見れば誰だってムカつくと思います。皆が皆ムカついているんですよ。「このクソババあが！」と言っているかもしれません。

でもね、渋滞を引き起こしていた張本人が実は自分の母ちゃんだったとしたら、って話です。自分の母ちゃんが見知らぬ他人に「このクソババあが！」と罵られている場面を想像してみてください。クラクションを鳴らされまくって、一人心細くオドオドしている自分の母ちゃんの姿を想像してみてください。僕だったら、やりきれない気持ちになります。

走行中の車から煙草をポイ捨てしている馬鹿を目撃した時、「これがもし、自分の兄弟だったら・・・」と感えたら、途端に彼が心配になりだすかもしれないのです。

言ってることわかりますよね？

こういう事を考えるキッカケになった出来事が実は最近ありまして、スタバでトイレ待ちをしていた時の話です。結構ピンチでした。漏れそうでした。直ぐに出てきて欲しかったです。本当に、今すぐに出てきて欲しかったです。

しかし、相手はかなりの時間立て籠もっていて、結構長い間待たされることになりました。かなりイライラして待っていたのですが、やっと出てきたと思ったら、なんとその人が知り合いだったんですよ。よく顔を出す居酒屋のアルバイトの青年でした。

お互いビックリなんですけど、次の瞬間、「お腹、大丈夫？」と心配して声を掛けていました。さっきまでのイライラやムカつきは綺麗になくなっていました。ああそんなもんか、と思いました。

イライラしても良い事ないわけだから、感情がコントロールできればそれに越したことはないですね。

話が逸れてしまいましたが、今回お話した“ここぞ”について、一度時間を取ってよく考えてみてください。自分自身のコアが見つかるかもしれないし、自分自身の弱さと前向きに向き合えるかもしれません。いずれにせよ、きっといいことがあるんじゃないかと思います。

最後まで読んでいただきありがとうございました。

Arigato! ★ Aun

★このレポートを読まれたあなたにお勧めの製品



ALIVE—地に足が着く瞬間—

この際正直に言いますが、地に足も着いていないクセに、「イキがってる」「口が多い」「勉強しかしてない」「悟った風にしてる」「偉そうにしてる」……ような奴を「ふわふわ系」と表現するのですが、ぶっちゃけウザいし、見ていてイタいですから。

多くを語らずとも人に認められる「地に足が着いた人間」へと進化するきわめてシンプルな方法を伝授

▶ 製品の詳細はこちら

※こちらの製品は、無料入手が可能です！詳しくはクリック！